

## あけぼの

すべひとあんしんともいしゃかい  
全ての人が安心して共に生きる社会をめざしてわたしわたし  
～私にできること、私たちにできること～

金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」という詩の中にある「みんなちがって、みんないい。」という一節を知っていますか。この一節にあるように、私たちは、見た目も、考え方や感じ方も、生い立ちや経験も一人一人みんなちがいます。だからこそ、誰もがかけがえのない価値ある存在なのだと思います。ちがいを排除したり、否定したりするのではなく、互いを尊重し合い、共に生きることができれば、私たち一人一人が構成する今の社会は、あたたかく豊かな社会になるのではないのでしょうか。

「あけぼの」第40号で紹介する物語を通して、社会の中で生きづらさや困り感を感じさせられている人の気持ちに思いを馳せたり、全ての人が共に安心して生きられる社会をつくるために自分にできることを考えたりしてみませんか。

ものがたりとおかんが  
物語を通して考えてみませんか

みなさんは、はじめての環境や、はじめて何かをする時など、はじめてのことに不安を感じたことはありませんか。今回紹介する物語『ひろちゃんのはじめて』に登場するひろちゃんは、はじめてが苦手な子どもです。

小学校に入学したひろちゃんにとって、いろいろなはじめてに出会う小学校生活は、苦手なことの連続です。入学式の日、幼稚園からの友達たちは、はじめての教室に戸惑うひろちゃんとそっと手をつなぎます。それから、ひろちゃんと友達たちは一緒に遊んだり話したりする中で、互いのことを知り合い、安心していられるつながりをつくっていきます。

みなさんも、誰かがかけてくれた言葉で安心したり、誰かが一緒にいてくれたことで安心したりした経験はありませんか。自分が感じてい

る不安に気づいて寄り添ってくれる仲間の存在が“ここにいても大丈夫”という安心につながっていくのではないのでしょうか。

感じ方は人によってちがいます。同じものを見たり、同じ音をきいたり、同じ匂いを嗅いだりしても、他の人は自分と同じように感じているわけではありません。「となりの人も自分と同じように感じているだろう」「となりの人も自分と同じようにできるだろう」と決めつけてしまうことで、その人を不安にさせてしまっていないのでしょうか。

『ひろちゃんのはじめて』が、ひろちゃんや子どもたちの姿と重ね合わせて自分の経験を振り返ったり、感想を語り合ったりするきっかけになればと思います。



# ひろちゃんのはじめて

作 人権教育課／絵 伊藤尚子

ぼくは、ひろちゃんのランドセル。

ひろちゃんが小学生になってからずっと一緒だよ。

ひろちゃんは、“はじめて”がちょっと苦手。

小学校へはじめて行く

前の日、ひろちゃんは  
ぼくをぎゅうっとだき  
しめてねむったよ。



ひろちゃんと小学校へ入学した日。

ひろちゃんは、はじめての教室に入れずにいたんだ。

でも、幼稚園から友だちのゆりちゃん、だいちゃん、か  
よちゃんと手をつないで、安心して教室に入ることが  
できたんだ。

はじめのころは新しい友だちから話しかけられると  
逃げていたひろちゃん。

ぼくは『ひろちゃ～ん！ちゃんと話さなきゃ～！』  
って心配したよ。

でもね、ゆりちゃんが「ひろちゃんは今はずかしいみたい。  
ちょっと待ってね」って周りの友だちに声をかけて  
いたんだ。それにね、だいちゃんは新しい友だちにも  
「一緒に遊ぼう」って声をかけていたよ。ひろちゃんも  
少しずつ新しい友だちのことも分かってきて、安心して  
遊べるようになったんだ。

ひろちゃんは少しずつ学校での生活や友だちや先生の  
ことが分かってきて、一人でも教室へ入ることができ  
るようになったんだよ。

友だちも先生も、ひろちゃんと一緒に遊んだり、おしゃ  
べりしたりしてなかよくなったからね。

ある日の授業のとき、先生が教室を暗くしたんだ。ぼ  
くは、『先生、ひろちゃんは暗いのが苦手だよ～！』っ  
てオロオロ。夜寝るときも明るくして寝てること、先生  
や新しい友だちは知らないからね。すると、だいちゃん  
が「先生、ひろちゃん暗いとこわがっちゃうよ」って  
言ったんだ。周りにいる友だちも「私も暗いの苦手～」  
と言って、となりに座ってひろちゃんと手をつないで  
いたよ。

はじめて音楽室で楽器を使う日。

前の日の夜、教科書の準備をしているとき、「明日の  
音楽、楽しみだなあ♪」って言ってたひろちゃん。『今頃  
どうしているかな～』って考えてたら、一人で教室へ  
逃げてきたひろちゃんに、ぼくはびっくり！

すると、すぐに友だちと先生もやって来て、「ひろちゃ  
ん、どうしたの？」ってきいたよ。たくさんの楽器の音  
にびっくりしたこと、大きな音がこわかったことをひ  
ろちゃんは話したよ。ひろちゃん、楽器の“はじめて”  
にびっくりしたんだね。でも、友だちと先生に話をき  
いてもらって、ひろちゃんはまた安心して音楽室へも  
どっていったよ。

それからひろちゃんはたくさんの友だちと先生と  
一緒に、いろんな“はじめて”に挑戦していったよ。

でもね、ひろちゃんは“はじめて”が苦手だけど、“は  
じめて”が得意でもあるんだ。

ひろちゃんはいろんな変化の“はじめて”に気づく天才  
なんだよ。

ひろちゃんは季節ごとに咲くお花や草の“はじめて”を  
発見するのが得意で、嬉しそうに家に持って帰って  
家族に見せるんだ。

ぼくも一緒に、『もうこの季節なんだね』って感じるこ  
とができるんだよ。

そして、友だちが笑っているときや泣いているときに、  
はじめに気づいてそばにいくのもひろちゃん。

すると、その友だちも、「ひろちゃんと手をつなぐとあ  
ったかくなるなあ(〃へ〃)」ってニコニコするんだよ。

先生が入学式の日に言ってたね。

「みんなはじめての小学校。

これからのはじめてのことが  
いっぱいあるよ。いろんな

“はじめて”を一緒に  
楽しんでいこうね」って。



いろんな“はじめて”に驚くこともあるけど、ひろち  
ゃんにはいつも一緒に“はじめて”を楽しめる友だちが  
できたね。ぼくはとっても安心したよ。これからも、い  
ろんな“はじめて”をぼくにも教えてね。